

**8K・RAW 撮影対応のデジタルシネマカメラ“EOS R5 C”を発売
シネマクオリティの動画性能と高速・高画質な静止画性能を両立**

キヤノンは、映像制作機器「CINEMA EOS SYSTEM」の新製品として、動画と静止画の両方に高性能を求めるユーザー向けに、質量約 680g の小型・軽量ボディと 8K・RAW 内蔵記録を実現したデジタルシネマカメラ“EOS R5 C”を 2022 年 3 月上旬に発売します。



EOS R5 C
*「RF24-70mm F2.8 L IS USM」装着時

“EOS R5 C”は、「CINEMA EOS SYSTEM」の動画性能とミラーレスカメラ「EOS R5」（2020 年 7 月発売）を踏襲した高い静止画性能^{※1}を、電源ダイヤルでのモード切り替えにより使い分けることができるデジタルシネマカメラです。高次元で動画性能と静止画性能の両立を実現したことにより、機動力が求められる報道現場や、シネマライクな画づくりが求められる広告・企業映像制作など、1 台で幅広い撮影シーンに対応します。

■ 豊富な情報量を持つ 8K・RAW 動画の内蔵記録を実現

自社開発の有効画素数約 4500 万画素^{※2}フルサイズ CMOS センサーと、映像エンジン「DIGIC X」の搭載により、8K/30P・RAW 動画に加え、外部電源供給による 8K/60P・RAW 動画^{※3}の内蔵記録を実現しています。汎用性の高い「MP4」での 8K/30P 動画の記録にも対応し、多様な映像制作をサポートします。また、豊富なデータ量を持つ 8K の有効画素を全画素読み出すことで、オーバーサンプリングによる高画質な 4K/4:2:2/10bit 動画を生成することもできます。さらに、新開発の放熱構造と、放熱ファンの内蔵により、「EOS R5」と比べて長時間の動画撮影を可能にしています。

■ 柔軟な映像制作をサポートするファイルフォーマットや動画撮影機能

RAW の豊富な映像情報を維持しながらデータサイズを軽くすることができる記録フォーマット「Cinema RAW Light」を採用し、外部レコーダーを使用せずに、CFexpress カードへの RAW 記録が可能です。また、放送規格に準拠したキヤノン独自のビデオフォーマット「XF-AVC」にも対応しているため、柔軟に使い分けることで、多彩なワークフローに対応します。さらに、スロー撮影時でも滑らかな映像表現を可能にする、最大 4K/120P のハイフレームレート動画の撮影にも対応します。

■ 高画質と高速性を両立する「EOS R5」を踏襲した静止画性能

有効画素数約 4500 万画素の高画質と高速連写を両立しています。電子シャッター撮影時は最高約 20 コマ/秒、メカシャッター／電子先幕撮影時は、最高約 12 コマ/秒の高速連写^{※4}をそれぞれ実現し、動きのある被写体も高画質に撮影することができます。

製品名	希望小売価格	発売日
EOS R5 C	オープン価格	2022 年 3 月上旬

※1 ボディ内に手ブレ補正機構を搭載していないため、レンズ側の光学式手ブレ補正機構との協調制御はできません。

※2 総画素数約 4710 万画素。

※3 8K/60P 撮影時は、同時期に発売予定の DC カプラー“DR-E6C”（別売り）とコンパクトパワーアダプター“CA-946”（別売り）の併用または USB 電源アダプター“PD-E1”（別売り）が必要。

※4 絞りやレンズの種類などの諸条件によって連続撮影速度が変化します。詳しくはキヤノン公式 HP をご参照ください。

● 一般の方のお問い合わせ先：キヤノンお客様相談センター

050-555-90006

● CINEMA EOS SYSTEM ホームページ：canon.jp/cinema-eos

<主な特長>

1. 豊富な情報量を持つ 8K・RAW 動画の内蔵記録に対応

- ・自社開発の有効画素数約 4500 万画素フルサイズ CMOS センサーと、映像エンジン「DIGIC X」の搭載により、8K/30P・RAW 動画に加え、外部電源供給による 8K/60P 動画の内蔵記録を実現。編集において 8K で撮影したデータから 4K のデータを切り出すなど、柔軟なワークフローを実現可能。
- ・汎用性の高い「MP4」での 8K/30P 動画の記録にも対応。さらに、データ量が少なく編集のしやすい Proxy 動画の同時記録にも対応し、映像制作の作業効率向上に貢献。
- ・豊富なデータ量を持つ 8K の有効画素を全画素読み出し、オーバーサンプリングによる高画質な 4K/4:2:2/10bit 動画を「XF-AVC」と「MP4」の両フォーマットにおいて、生成可能。
- ・吸気から排気までのエアフローと電子基板をそれぞれ独立させた新開発の放熱構造と、カメラ内の温度上昇を低減する放熱ファンの内蔵により、「EOS R5」と比べて長時間の動画撮影に対応。



新開発の放熱構造

2. 柔軟な映像制作をサポートするファイルフォーマットや動画撮影機能

- ・RAW の豊富な映像情報を維持しながらデータサイズを軽くすることができる記録フォーマット「Cinema RAW Light」を採用。外部レコーダーを使用せずに、CFexpress カードへの RAW 記録を実現。
- ・「Cinema RAW Light」内に、画質や伝送速度などが異なる新開発の「高画質 RAW HQ/通常画質 RAW ST/軽量記録 RAW LT」モードを搭載。
- ・放送規格準拠の MXF^{※1}を採用した、キヤノン独自のビデオフォーマット「XF-AVC」に対応。動画データを「H.264」の形式で圧縮し、効率的な記録を実現。
- ・最大 4K/120P のハイフレームレート動画が撮影でき、スロー撮影時でも滑らかな映像表現が可能。また、ハイフレームレート動画撮影時も階調豊かな 4:2:2/10bit のサンプリングに対応。
- ・撮影前に好みの色合いや明るさを設定可能な「カスタムピクチャー」に、「CINEMA EOS SYSTEM」の上位機種で搭載している画質設定を採用。異なる複数カメラでの撮影時でも、設定を同じにすることで統一した色合いや明るさのもとで撮影可能。
- ・広いダイナミックレンジを持ち、階調の調整などポストプロダクション処理が容易な「Canon Log 3」を搭載。
- ・ディープラーニング技術を用いて開発した被写体認識アルゴリズム「EOS iTR^{※2} AF X」の搭載により、顔や頭部など被写体を安定して検出し、高精度な追従を実現。
- ・「CINEMA EOS SYSTEM」のカメラとして初めて「瞳検出」に対応。カメラのフォーカス操作が難しいポートレート撮影などにも対応。



瞳検出のイメージ

※1 Material Exchange Format の略。SMPTE (Society of Motion Picture and Television Engineers : 米国映画テレビ技術者協会) 規格で定義されているビデオフォーマット。

※2 intelligent tracking and recognition.

3. 高画質と高速性を両立する「EOS R5」を踏襲した静止画性能

- ・ CMOS センサーの有効画素数約 4500 万画素の高画質と高速連写を両立。
- ・ 電子シャッター撮影時は、AF/AE 追従で最高約 20 コマ/秒の高速連写を実現。野生動物との対峙やスポーツの試合会場などのシーンにおいてシャッター音を気にせず撮影が可能。
- ・ メカシャッター/電子先幕撮影時は、最高約 12 コマ/秒の高速連写を実現。
- ・ 「PHOTO モード」では、「デュアルピクセル CMOS AF II」による、追従性に優れた高速・高精度・広範囲な AF を実現。「顔+追尾優先 AF」設定時は、画面の最大約 100% (縦) × 最大約 100% (横) の範囲への測距が可能^{※1}。さらに、静止画撮影時は AF フレームを、最大 1053 分割^{※2}のエリアから自動で選択可能。
- ・ 人物の瞳・顔・頭部・胴体と、動物(犬/猫/鳥)の瞳・顔・全身検出機能を搭載。さらに、乗り物(モータースポーツにおける車・バイク)の全体・スポット検出機能も新たに搭載。

※1 シーンや被写体の状況によって対応できない場合があります。対象レンズはキヤノン公式ホームページをご参照ください。

※2 「顔+追尾優先 AF」かつ被写体非検出時。

4. 快適な撮影を実現する各種仕様や通信機能

- ・ CFexpress カード (Type B) と SD メモリーカード (UHS-II 対応) のデュアルスロットを搭載。8K RAW 内蔵記録時においても、4K・「MP4」といった解像度やファイルフォーマットの異なる形式の映像を 2 枚の記録カードへそれぞれ同時に記録可能。
- ・ Timecode 入出力端子の搭載により、複数カメラ間の同期が容易にでき、編集作業の効率化にも貢献。
- ・ ミラーレスカメラ「EOS R3」(2021 年 11 月下旬発売)と共通の新しいマルチアクセサリシューを採用。ティアック株式会社の XLR マイクアダプター「CA-XLR2d-C^{※1}」(別売り)を接続することで、XLR 端子を使用した 4 チャンネルでのオーディオ収録が可能となり、柔軟な音声記録ワークフローを実現。
- ・ 「VIDEO モード」では、iOS 専用のモバイルアプリ「Content Transfer Mobile^{※2}」を使用することにより、カメラ本体と有線/無線接続した iOS 端末に、撮影した動画やメタデータを取り込み、放送局などのサーバーへ FTP 転送することができ、放送までのワークフローを高速・効率化。
- ・ ニュース制作を効率化するメタデータ規格「DPP002 Metadata Exchange for News」に対応。モバイル端末上でメタデータの編集・書き込みが可能。
- ・ Web ブラウザからリモート操作が可能な「Browser Remote^{※2}」を刷新。スマホ向けの新レイアウトや、より詳細なコントロールコマンドを表示できるなど機能を拡充し、ワンマン撮影などをサポート。
- ・ 「PHOTO モード」では、「Camera Connect」や「Mobile File Transfer」など「EOS R5」と共通のモバイルアプリにも対応。
- ・ 堅牢(けんろう)性と軽量化を両立する高剛性のマグネシウム合金製ボディにより、高い信頼性を確保。また、水滴や砂じんがカメラ内部へ侵入しにくい構造^{※3}を採用。



Timecode 端子(赤枠)などを備えるインターフェース

※1 詳細は、2021 年 8 月 18 日のティアック株式会社の報道発表をご参照ください。

※2 「Content Transfer Mobile」の無線接続と「Browser Remote」の使用時には、それぞれワイヤレスファイルトランスミッター「WFT-R10B」(別売り)が必要です。

※3 防じん・防滴性能を発揮させるため、電池室やカードスロットカバー、端子カバーなどの開閉部をしっかり閉じる必要があります。カメラは防じん・防滴に配慮した構造になっていますが、砂じんや水滴などの侵入を完全に防ぐことはできません。

＜映像制作機器の市場動向＞

高品位な映像が求められる映像制作機器では、8Kをはじめとしたデジタルシネマカメラのセンサーの高解像化が進んでいます。また、制作環境は常に変化しており、新しい映像表現に向けてユーザーの撮影スタイルは多様化しています。そのため、高画質な映像が撮影できることに加え、小型で取り回しのよい高い操作性を兼ね備えたカメラへのニーズが高まっています。(キヤノン調べ)

＜主な製品仕様＞

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。

* IOS は、米国およびその他の国々における Cisco 社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。